

■平成28年度執行目標 マチオモイ部

部局	課・室	番号	執行目標項目	執行目標の内容	背景・課題・留意点等	項目 (単位)	根拠計画 等	H27 実績値	H28 目標値
マチオモイ部	学研企画課	3	駅舎再生事業の見直し	平成27年度をもってJR高速化等関連事業費補助金の補助が終了したこと、市内には両駅以外に無人駅が存在すること、また、行財政改革推進委員会による事業仕分けの意見があったことを受け、市とJRが駅舎管理の役割を明確にし、事業内容を見直す。	JR奈良線の複線化とともに無人となった棚倉駅、上粕駅を、利用者の利便性向上及び安全性の確保に努めるとともに、両駅周辺環境美化を図るため平成15年度から有人化としたが、本事業の見直しの必要があった。また、行財政改革推進委員会による事業仕分けにおいて、駅の管理はJRで実施していくことが基本であるとの意見があった。				
マチオモイ部	学研企画課	4	情報セキュリティ強化対策	平成29年7月からは、国・地方を通じたマイナンバーを活用したオンライン情報連携に向け、サイバー攻撃等から自組織の情報、システム、業務を守るための有効な対策を講じる事で、個人情報の流出事故等を防ぎ、市民の情報資産を守る。	IT環境があらゆる業務に不可欠な現状において、ますます巧妙化している外国等からのサイバー攻撃から、自治体各自のセキュリティを高めることで、標的型攻撃から情報システムを防御するために有効な対策を講じる。	セキュリティ強化 対応端末 数割合 (%)		0	100
マチオモイ部	学研企画課	5	ネットを活用した観光集客	昨年度整備したWi-Fiや市プロモーション映像を活用し、訪日外国人の集客マーケティング・外国人観光客の市場への販促など、インバウンド（訪日観光＝日本へ来る外国人観光客）に特化した効果的な海外のFIT市場への宣伝など、国内外の観光集客に向けた情報戦略を講じる。	平成27年度、国内外の集客を図るため、Wi-Fi整備、プロモーション映像、移動型端末対応のアプリ構築を行った。これらの情報ツールを活用し、2020年東京オリンピックの決定を背景に急増する外国人観光客を木津川市内に呼び込む。 なお、もっとも有効的とされているのが、外国人による口コミ発信とされているため、外国人にSNS魅力発信事業（Wi-Fi整備済）を活用してもらい、SNS発信を進めていく。	Wi-Fi 接続数 (件)		5569	3000
マチオモイ部	観光商工課	1	観光振興施策の推進	お茶の京都をはじめとした、観光振興施策の充実に向け、木津川市観光協会と連携強化を図るとともに、協会の運営・体制強化に継続的に取り組む。	大仏鉄道・秘宝秘仏特別開扉に関連して、観光協会と奈良交通が共同で初となるバスツアーを実施した。また、観光アプリの構築にあたって情報共有するなかで進め、今年度情報充実を図っていく。	観光協会 との事務 連絡会の 回数 (回)		2	2
マチオモイ部	観光商工課	2	木津川アート2016の事業実施	木津川アート2016を開催する。 開催地となる山城地域の児童等と出展作家との交流事業やボランティア確保に努め、協働型アートイベントの充実を図る。	昨年度は木津川アート2016に向け、地元との関わりを深めるため、マチオモイ帖を制作し、参加作家の募集を行うにあたり、チラシの配布先を充実させた。また4月9日にはプレイベント「森フェス」を開催した。	イベント 参加者数 (人)		62	9500
マチオモイ部	観光商工課	3	環の拠点創出事業の推進	キツガワゴンをはじめ、「お茶の京都」と連携し、環の拠点地域等の賑わいづくりを目指す。	木津川市環の拠点創出事業活性化検討会（2回）、お茶の京都ワークショップ（6回）を行い、まちの賑わい創出・交流人口の増加をめざし、キツガワゴンが誕生した。3月20日に、キツガワゴンFestaを開催した。	キツガワ ゴンを活 用したイ ベント数 (回)		1	5
マチオモイ部	観光商工課	4	当尾地域力活性化協働モデル事業の実施	当尾地域において、ウォーキング等を活用した観光振興を図り、地域住民と一体となった地域力の活性化を促進する取組を推進する。	当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会を設置し、3月に「当尾地域力創造プラン」を策定した。	地元との 意見交換 回数 (回)		3	5
マチオモイ部	観光商工課	5	商工業・中小企業等の活性化	市内商工業者の支援及び市の魅力発信を目的に、地場産業を中心とした「ものづくりフェア」を継続開催する。 関係機関と連携し、地域の実情に即した「地域商業ガイドライン」の見直しに取り組む。 市内企業への円滑な支援に向け、市商工会との定期的な情報交換や連携強化に努める。 本年度、産業競争力強化法に基づく認定を取得し、関係機関とともに各種支援事業等に係る支援体制の構築に努める。	第3回ものづくりフェア（織物ふすま紙）を開催した。（平成27.9.28～平成27.10.2） 市商工会と月1回以上の情報交換等を行った。 平成27年度末に、産業競争力強化法に基づく認定取得を申請した。現在、国において審査中である。	ものづく りフェア 来場者数 (人/日)		61	65
マチオモイ部	企業立地推進室	1	市内への企業誘致	職員2人体制による積極的かつ広域的な企業誘致活動を実施し、市内への新規立地実現を目指す。 本年度末で失効する「木津川市企業立地促進条例」につき、同種の制度を有する京都府等の動向を見極めながら、市内への立地促進の有効なインセンティブとして活用できるように、次年度以降の支援制度等に係る検討を進める。 木津中央地区に開校した「京都大学大学院農学研究科附属農場」を活かし、農や食に関する企業誘致を進めるとともに、地元の雇用創出に努める。	昨年度、1件の新規誘致を決定した。 重点地区である学研地区内において複数の未利用地が残っており、引き続き、これらの早期活用に向けた積極的な誘致活動を展開する必要がある。	市内への 企業誘致 を実現し た事業所 数(件)		1	1
マチオモイ部	農政課	1	木津川市産農産物の販売促進	木津川市産農産物の販売促進を行う。 ①大都市圏で「木津川市フェア」を開催する。 ②市内スーパー等での木津川市産農産物の販売イベントを開催する。 ③熊野市と連携し、木津川市産農産物の直売を実施する。	平成28年3月26日～27日に、東京板橋区・ハッピーロード大山商店街において、「木津川市 春の京野菜・宇治茶フェア」を開催した。 熊野市と連携し、隔週に「くまの特産品広場」において、木津川市産農産物の直売を実施した。 《課題》 ・昨年度は、市内スーパーでの農産物直売会を開催することができなかった。今年度は、市内スーパーでの木津川市産農産物の販売イベントを実施したい。	市内スー パーでの 木津川市 産農産物 の販売イ ベント (回)		0	9

■平成28年度執行目標 マチオモイ部

部局	課・室	番号	執行目標項目	執行目標の内容	背景・課題・留意点等	項目 (単位)	根拠計画 等	H27 実績値	H28 目標値
マチオモイ部	農政課	2	ふれあい農園の在り方について	ふれあい農園について ふれあい農園を存続するかしないか検証する。(利用者にアンケート調査等) 存続の場合 ①使用料見直しの検討 ②農園規模縮小の検討(木津川農園は市有地であるが、中央体育館東側農園は借入地のため赤字解消目的も兼ねて返却することを検討)	ふれあい農園は、旧木津町時代に農業者以外の方が自然の中で野菜や花などを栽培することにより、農業に対する理解を深めていただくと同時に、農作物を育てる喜びを体験することで、ゆとりのある生活を創造していただくとともに憩いの場を提供する目的で開設された。しかし、近年、募集区画数に対して申込者数が下回っており(募集割れ)追加募集を実施する状況が続いている。				